

2017年版 デュプリケートブリッジの規則

ペナルティカードに関する注釈

ver 1.05 2018/11/17

仲村篤志

－ 索引 －

定義	ペナルティカード (Penalty Card)……………	2
第14条	紛失したカード……………	14
第24条	オークション中に見せたり、リードしたカード……………	16
第45条	プレイされたカード……………	18
第47条	カードのプレイの取り消し……………	20
第48条	ディクレアラーが見せたカード……………	20
第49条	ディフェンダーが見せたカード……………	22
第50条	ペナルティカードの処置……………	2
第51条	2枚以上のペナルティカード……………	10
第52条	ペナルティカードをリードしなかったり プレイしなかったとき……………	12
第54条	表向きに出した順番外のオープニングリード……………	24
第56条	ディフェンダーの順番外のリード……………	26
第57条	早まったリードやプレイ……………	28
第58条	同時に行われたリードまたはプレイ……………	30
第59条	要求されたとおりにリードまたはプレイできない場合……………	30
第60条	違法なプレイの後のプレイ……………	32
第61条	スートにフォローしないことーリボークに関する質問……………	34
第62条	リボークの訂正……………	36
第64条	リボーク成立後の手順……………	38
第68条	トリックの「取り」または「取られ」の宣言……………	40
実際の裁定例	……………	42

規則の目的

規則はデュプリケートブリッジの正しい手順を定め、それからの逸脱による損害に対して、相当の補償をすることを目的としている。

また、規則は違反行為を処罰することではなく、違反行為によって非反則者が損害を被った状況を調整することを目的としている。

(デュプリケートブリッジの規則 前書きより)

定義 ペナルティカード (Penalty Card)

第50条の処分の対象となるカード。

第50条 ペナルティカードの処置

ディフェンダーが早まって見せたカード（リードしたものを除く、第57条参照）は、ディレクターが別途の指定をしなければペナルティカードになる（第49条参照、また第72条C項を適用することがある）。

A. ペナルティカードは表向きに置く

調整が選ばれるまで、ペナルティカードは所属するプレイヤーのすぐ前のテーブルの上に表向きに置いておかなければならない。

B. メジャーペナルティカードかマイナーペナルティカードか

アナーカードではなく、意図せずに（トリックに2枚プレイしたり、偶然カードを落とすなどして）見せた1枚のカードはマイナーペナルティカードになる。アナーカードや故意のプレイにより見せた（例えば、順番外のリードやリボークしてその後訂正するなど）カードはすべてメジャーペナルティカードになる。また、1人のディフェンダーに2枚以上のペナルティカードがあるときは、このカードはすべてメジャーペナルティカードになる。

C. マイナーペナルティカードの処置

ディフェンダーにマイナーペナルティカードがある場合には、反則者はそれをプレイするまで同じスートのアナーではないカードをプレイしてはならないが、代わりにアナーカードをプレイすることはできる。反則者のパートナーにリードの制限はない。ただし、本条E項参照。

(続く)

定義

○2017年版デュプリケートブリッジの規則で「ペナルティ」や「罰則」という言葉はL50,L51,L52「ペナルティカード」、L90「手順上のペナルティ」、L91「規律罰則」でしか使われていない。

L50

○ペナルティカードの対象はディフェンダーだけである。ディクレアララーやダミーにペナルティカードは存在しない。
○第57条は『早まったリードやプレイ』。順番外のリードについては第57条をまず適用する。
○第49条は『ディフェンダーが見せたカード』。合法にプレイされたカードと規則を適用する場合を除きディフェンダーが見せたカードはペナルティカードになる。
○上記2項目以外でディレクターがとくに指示しない限りディフェンダーが早まって見せたカードはペナルティカードになる。
○第72条C項は『損害の可能性に気づくこと』。ディフェンダーが早まってカードを見せた時点で見せたカードによって対戦相手に損害を与える可能性に気づくことができた場合は第72条C項で調整する可能性がある。

L50A

ペナルティカードの制限や不当な情報の調整でも救済できない損害あった場合はこの第72条C項を適用する。反則者が可能性について知っていたかは問題ではなく、可能性に気づくことができたかどうかで裁定する。
○ペナルティカードの裁定にあたって、ペナルティカードがテーブルの上で表向きになっている間、ディレクターはテーブルに留まりプレイヤーが調整に違反しないように注意をはらうことが望ましい。

(続く)

第50条 ペナルティカードの処置（再掲）**B. メジャーペナルティカードかマイナーペナルティカードか**

アナーカードではなく、意図せずに（トリックに2枚プレイしたり、偶然カードを落とすなどして）見せた1枚のカードはマイナーペナルティカードになる。アナーカードや故意のプレイにより見せた（例えば、順番外のリードやリボークしてその後訂正するなど）カードはすべてメジャーペナルティカードになる。また、1人のディフェンダーに2枚以上のペナルティカードがあるときは、このカードはすべてメジャーペナルティカードになる。

C. マイナーペナルティカードの処置

ディフェンダーにマイナーペナルティカードがある場合には、反則者はそれをプレイするまで同じスートのアナーではないカードをプレイしてはならないが、代わりにアナーカードをプレイすることはできない。反則者のパートナーにリードの制限はない。ただし、本条E項参照。

(続く)

- L50B,C ○ディレクターが裁定する前にペナルティカードをテーブルに置きプレイを進めていることがある。ディレクターは第10条B項『調整の執行または免除の取り消し』により、そのまま受け入れることも、取り消すことも、部分的に取り消すこともできる。
- また、第11条『調整を受ける権利の消滅』により非反則者が得られた権利が消失することがある。
- L50B ○ディレクターはまずメジャーペナルティカードかマイナーペナルティカードかを裁定する。以下のどれかに合致すればメジャーペナルティカードである。
- (1) 2枚以上のペナルティカードがある
 - (2) A、K、Q、J、10のいずれかである
 - (3) 意図して見せたカードである
- (1)(2)の判別は容易だが(3)の意図があったかどうかの判断が重要だ。意図していなかった例は次のとおり。
- ・カードを落としてしまった
 - ・プレイしたいカードに、もう1枚のカードがくっついて出てしまった
- L50C ○マイナーペナルティカードのときは、そのスートの他のローカードをプレイしないよう説明する。下記の点を補足するとよい。とくにディクレアララーが勘違いしてプレイしないよう説明する。
- (1) 反則者のパートナーにリードの制限がないこと
 - (2) アナーをフォローすることができること
 - (3) リードやディスカードのときは他のスートをプレイできること

(続く)

第50条 ペナルティカードの処置（続き）

D. メジャーペナルティカードの処置

ディフェンダーにメジャーペナルティカードがある場合には、反則者はプレイするとき、反則者のパートナーはリードするとき、それぞれ制限を受ける。

1. (a) 本条B項に定める場合を除き、メジャーペナルティカードは、リード、スートへのフォロー、ディスクード、またはトランプのどの場合でも合法的な最初の機会にプレイしなければならない。合法的にプレイできるペナルティカードが2枚以上ディフェンダーにある場合は、どちらをプレイするかディクレアラーが指定する。
- (b) スートにフォローしたり、リードやプレイの制限に従う義務はメジャーペナルティカードをプレイする義務に優先するが、ペナルティカードはそのままテーブルの上に表向きに残しておき、次の合法的な機会にプレイしなければならない。
2. パートナーにメジャーペナルティカードがある間にリードするときは、ディクレアラーが次の選択権を行使するまでリードしてはならない（ディフェンダーが早まってリードした場合は第49条の制限を受ける）。ディクレアラーは次から選ぶことができる、
 - (a) ディフェンダーにペナルティカードのスートのリードを要求する^{*13}か、リードを保持する間、そのスートのリードを禁止できる（2枚以上のペナルティカードについては第51条参照）。ディクレアラーがこの選択権のいずれかを行使したときはこのカードはもはやペナルティカードではなくなり、ハンドに戻す。

（続く）

- L50D1 ○メジャーペナルティカードは合法的にプレイできるときにプレイしなければならない。
○合法的とはプレイする順番でスートにフォローする義務に違反しない限り、という意味である。
○したがってアンダーラフなど普通ではないプレイも含む。
- L50D2 ○メジャーペナルティカードがあるとき、反則者のパートナーは勝手にリードをしてはいけないことと、ディクレアラーには以下の選択肢があることを説明する。
(1) ペナルティカードのあるスートの要求
(2) ペナルティカードのあるスートの禁止
(3) 要求・禁止をしない
○禁止はリード権が保持されているあいだ続くことを説明する。
○要求されたスートがないときは任意のカードをリードできる（脚注13）。
○要求・禁止をした場合はペナルティカードはハンドに戻り、ペナルティカードではなくなることつまり、最初の機会にプレイする義務がなくなることを説明する。
○要求・禁止をしない場合はペナルティカードはメジャーペナルティカードのままとなる。違うスートのAを取って次のリード権が続いたときは、次のトリックでもリードの制限について裁定する。（脚注14）

（続く）

^{*13}指示どおりプレイできないときは第59条参照。

第50条 ペナルティカードの処置（続き）

(b) リードの要求や禁止を行わない。この場合ディフェンダーは任意のカードをリードすることができ、ペナルティカードはそのままテーブル上にペナルティカード^{*14}として残る。この選択肢が行使された場合、ペナルティカードが残っている間は本条D項を引き続き適用する。

E. ペナルティカードから得た情報

1. ペナルティカードから得られた情報とそのペナルティカードをプレイする条件は、ペナルティカードがテーブル上にある間はプレイヤ全員に正当な情報である。
2. ペナルティカードから得られた情報は、(第50条D項2(a)に従い) ペナルティカードがハンドに戻された後には、ペナルティカードを出したプレイヤのパートナーにとっては不当な情報であり(第16条C項参照)、ディクレアラーには正当な情報である。
3. ペナルティカードがプレイされた直後からは、そのカードがペナルティカードになった状況から得られた情報は、ペナルティカードを出したプレイヤのパートナーにとっては不当な情報である(まだプレイされていないペナルティカードについては本条E項1参照)。
4. 本条E項1を適用した後ディレクターがプレイ終了時に、見えたカードから得た助けがなければボードの結果は違った可能性が十分にあり、結果として非反則側が損害を受けたと判断すれば、調整スコアを与えるものとする(第12条B項1参照)。この調整においてディレクターはペナルティカードの影響がなければこのボードで得られたであろう結果に可能な限り近づけるようにする。

^{*14} ペナルティカードがあるディフェンダーのパートナーがリードを保持していて、ペナルティカードがプレイされなかった場合は、次以降のトリックにおいても第50条D項2の要件と選択肢のすべてが適用される。

L50E

○2017年の改正で規則が改正された。ペナルティカードが机の上にある間は、ペナルティカードから得られる情報は全員に正当なものとして扱われる。そしてペナルティカードがプレイされたり、リードの要求・禁止でハンドに戻ることでテーブル上からなくなると、ペナルティカードから得られた情報は不当な情報になる。

○ディクレアラーには依然として正当な情報である。

○例えば♠Kが順番外にリードされ受け入れられずペナルティカードになったとする。

(1) ディクレアラーはリードの禁止をした

ペナルティカードはハンドに戻りなくなったので、反則者のパートナーにとって、パートナーに♠Kがあること、♠Qか♠Aがありそうなこと、さらに♠以外のスートにHCPが少なさそうなことは不当な情報になる。

(2) ディクレアラーはリードの制限をしなかった

♠Kは机の上にペナルティカードとしてあるので、今♠をリードするとパートナーが♠Kをプレイすることは正当な情報である。♠Aを持っていてリードの約束では♠Aからプレイする取り決めだったとしても♠のスマールをリードすることに問題はない。

また、パートナーに♠Qか♠Aがありそうなこと、さらに♠以外のスートにHCPが少なさそうなこともこの段階では正当な情報である。

ただしこの情報により非反則者が損害を受けた場合は調整する。不当な情報ではないため、反則者のパートナーが情報に影響を受けた行動を取ること自体は反則行為でない。通常得られたであろうスコアに調整する。

第51条 2枚以上のペナルティカード**A. 反則者のプレイする順番**

ディフェンダーのプレイの順番において、1人のディフェンダーに合法的にプレイできるペナルティカードが2枚以上ある場合、ディクレアララーはその順番にどれをプレイするか指定する。

B. 反則者のパートナーのリードする順番

1. (a) ディフェンダーの1つのスートに2枚以上のペナルティカードがあり、ディクレアララーがそのディフェンダーのパートナーに対してそのスートのリードを要求^{*15}したときには、そのスートのカードはすべてペナルティカードではなくなる。ディフェンダーはこのスートのカードをハンドに戻し、そのトリックの合法的な任意のカードをプレイできる。
- (b) ディフェンダーの1つのスートに2枚以上のペナルティカードがあり、ディクレアララーがそのディフェンダーのパートナーに対してそのスートのリードを禁止^{*15}したときには、ディフェンダーはこのスートのペナルティカードをすべてハンドに戻し、そのトリックに合法なら任意のカードをプレイできる。この禁止はそのプレイヤがリードを失うまで続く。
2. (a) ディフェンダーの2つ以上のスートにペナルティカードがあり（第50条D項2(a)参照）、このディフェンダーのパートナーがリードするときは、ディクレアララーはペナルティカードの任意の1つのスートをリードすることを要求^{*15}できる（ただし、このときは前項B 1 (a)を適用する）。
- (b) ディフェンダーの2つ以上のスートにペナルティカードがあり、このディフェンダーのパートナーがリードをするときは、ディクレアララーはペナルティカードの1つまたは複数のスートのリードを禁止^{*15}できる。この場合ディフェンダーは、ディクレアララーが禁止したスートのペナルティカードをすべてハンドに戻し、そのトリックに合法的な任意のカードを

^{*15}指示どおりプレイできないときは第59条参照。

プレイできる。この禁止はそのプレイヤがリードを失うまで続く。

(c) ディフェンダーの2つ以上のスートにペナルティカードがあり、このディフェンダーのパートナーがリードをするときに、ディクレアララーがリードの要求も禁止もしなかった場合には、ディフェンダーのパートナーは任意のカードをリードできる。ペナルティカードはそのままテーブル上にペナルティカード^{*15}として残る。この選択権が行使された場合、ペナルティカードが残っている間は第50条と第51条を引き続き適用する。

注釈 第51条

- | | |
|-------|---|
| L51 | ○ 1人のディフェンダーにペナルティカードが2枚以上あるときは、そのすべてのペナルティカードがメジャーペナルティカードである。 |
| L51A | ○ ペナルティカードをプレイするとき合法的にプレイできるカードが複数枚あるときは、どれをプレイするかディクレアララーが指定する。 |
| L51B2 | ○ 複数のペナルティカードがあるプレイヤのパートナーがリードするとき
(1) 複数のスートのうち1つのスートを要求できる。
(2) 複数のスートを禁止できる（1つのスートでも可）。
(3) 要求・禁止をしないときはすべてのペナルティカードを引き続きペナルティカードとして扱う。 |
| L51B1 | ○ 要求・禁止をしたスートに複数のカードがあった場合はそのスートのすべてのカードがハンドに戻る。 |

^{*15}ペナルティカードがあるディフェンダーのパートナーがリードを保持している場合は、次のトリックにおいても第51条B項2の指示と選択肢のすべてが適用される。

第52条 ペナルティカードをリードしなかったりプレイしなかったとき

A. ディフェンダーがペナルティカードをプレイしなかったとき

ディフェンダーが第50条または第51条で要求されるとおりペナルティカードをリードしなかったり、プレイしなかったとき、そのディフェンダーはカードのプレイを勝手に取り消してはならない。

B. ディフェンダーが別のカードをプレイしたとき

1. (a) ディフェンダーが規則でペナルティカードをプレイする義務があるときに別のカードをプレイした場合、ディクレアラーはこのリードやプレイを受け入れることができる。
- (b) ディクレアラーはこのリードやプレイに引き続きハンドやダミーからプレイした場合、これを受け入れなければならない。
- (c) 本条B項1(a)または(b)でプレイしたカードが受け入れられた場合、プレイされなかったペナルティカードはすべてそのままペナルティカードとして残る。
2. ディクレアラーが違法にプレイまたはリードされたカードを受け入れなかった場合、ディフェンダーはそのカードではなく、ペナルティカードをプレイしなければならない。違反行為の際ディフェンダーが違法にリードしたりプレイしたカードはすべてメジャーペナルティカードになる。

L52

- ペナルティカードをプレイしないことは違法なプレイである。誤ってプレイしたカードを勝手にハンドに戻してはならない。
- ディクレアラーに以下の説明をする。
 - (1) 違法なプレイを受け入れる。元のペナルティカードは、引き続きペナルティカードとして扱われる。
 - (2) 違法なプレイを受け入れない。元のペナルティカードがプレイされ、違法にプレイされたカードはメジャーペナルティカードになる。
- ディクレアラーが違法なプレイに引き続きプレイを続けたときは、違法なプレイを受け入れたことになる。ダミーからのプレイでも同様である。

第14条 紛失したカード**A. プレイ開始前に不足が発見されたハンド**

あるハンドに13枚より少ないカードしかない一方、13枚より多いハンドもないことをオープニングリードが表向きになる前に発見したときは、ディレクターは紛失しているカードを捜し、

1. そのカードを発見した場合、不足しているハンドに戻す。
2. そのカードを発見できない場合、ディレクターは別のパックを代用してディールを復元する。
3. オークションとプレイは行われたコールのどれも変更することなく普通に継続し、この復元されたハンドにはすべてのカードが終始一貫して所属していたものとみなされる。

B. 後で不足が発見されたハンド

ハンドに13枚より少ないカードしかなく、13枚より多いハンドもないことをオープニングリードが表向きにされた後どの時点であれ（訂正期間終了まで）発見したときは、ディレクターは紛失しているカードを捜し：

1. そのカードをプレイされたカードの中から発見した場合、第67条を適用する。
2. そのカードをその他の場所で発見した場合、カードを不足していたハンドに戻す。調整やペナルティを科すことがある（本条B項4参照）。
3. そのカードを発見できなかった場合、別のパックを使ってディールを復元する。調整やペナルティを科すことがある（本条B項4参照）。
4. 本条B項の規定でハンドに戻したカードは、一貫して不足していたハンドに所属していたとみなす。このカードはペナルティカードになることがあり、またこのカードをプレイしなかったことはリボークになることもある。

C. カードの入れ換えから得た情報

カードを入れ換えたという情報は、間違った枚数のハンドを持っていたプレイヤーのパートナーには不当なものである。

- L14B4 ○不足したカードがディフェンダーのカードで、パートナーの見える位置にあったならば、ペナルティカードとして扱う。

第24条 オークション中に見せたり、リードしたカード

オークション中にプレイヤー自らの間違いによりそのプレイヤーのハンドのカードがパートナーに表が見えるような位置にあったとディレクターが判断したときは、オークションが終了するまでこのようなカードをすべて表向きにテーブルの上に置くように命じる。このように見せたカードから得た情報は非反則側には正当なものであるが反則側には不当なものである

A. 早まったリードではない低いカード

アナーではなく、早まってリードしたものでもない1枚のカードの場合、それ以上の調整はない（本条E項参照）。

B. 1枚のアナーカードか早まってリードしたカード

1枚のアナーカードかどのカードであれ早まってリードしたカードの場合、反則者のパートナーは次のコールの順番のとき、パスしなければならない（パスが非反則側に損害を与えるときは第72条C項参照）。

C. 2枚以上のカードを見せた場合

2枚以上のカードを見せた場合、反則者のパートナーは次のコールの順番のとき、パスしなければならない（パスが非反則側に損害を与えるときは第72条C項参照）。

D. ディクレアラ側

反則者がディクレアラまたはダミーになる場合は、このカードはハンドに戻す。

E. ディフェンダー

オークションの終了後、反則者がディフェンダーになる場合、このようなカードはすべてペナルティカードになる（第50条および第51条参照）。

- L24 ○第50条『ペナルティカードの処置』よりペナルティカードの定義はディフェンダーが早まって見せたカードである。オークション中に見せたカードはペナルティカードではない。
- 裁定はペナルティカードと同様にメジャーペナルティカードの条件にあてはまるか、あてはまらないかで判断する。
- L24A ○マイナーペナルティカード相当なときは、とくにオークションの制限はない。
- L24B ○10はアナーカードであることに注意する。
- L24BC ○メジャーペナルティカード相当なときは、反則者のパートナーが次の順番に1回パスしなければならない。
- L24DE ○見せたカードの側がディフェンダーになったとき、改めてペナルティカードとなる。第24条A項はマイナーペナルティカード、第24条B項C項はメジャーペナルティカードとして扱う。反則者がオープニングリードをするときはプレイしなければならない。反則者のパートナーがリードするときはリードの制限を受ける。
- 2枚以上のカードが見えている場合は第51条『2枚以上のペナルティカード』に従う。

第45条 プレイされたカード

- A. ハンドからのカードのプレイ
- B. ダミーからのカードのプレイ
- C. プレイしたとみなされるカード
- D. ダミーが指定されていないカードを取り上げたとき
- E. トリックにプレイされた5枚目のカード
 1. ディフェンダーがトリックに対してプレイした5枚目のカードは、ディレクターがリードとみなして第53条または第56条を適用しない限り、第50条に従いペナルティカードになる。
 2. ディクレアララーがトリックに対して、ハンドまたはダミーから5枚目のカードを出したときは、ディレクターがリードとみなして第55条を適用しない限り、このカードを調整なしでハンドに戻す。
- F. ダミーがカードを指示した場合
- G. トリックを伏せること

- L45E1
 - 第53条は『順番外のリードの受け入れ』
 - 第56条は『ディフェンダーの順番外のリード』
 - リードとして扱い、上記条項で受け入れられたときはペナルティカードにならない。
 - トリックにプレイされた5枚目のカードは、ディレクターが、次のトリックのリードとして扱うかどうかを判断する。リードとして扱うときの判断の基準は以下のとおり。
 - (1) リードの意図があった
 - (2) かつ
 - (a) リード権が実際にある
 - (b) リード権があると勘違いするような状況がある
 - リード権があるときは、次のトリックのリードになる。
 - リード権がないときは、第56条『ディフェンダーの順番外のリード』を適用する。受け入れられなければメジャーペナルティカードである。
 - リードとして扱わないとき、5枚目のカードはメジャーペナルティカードになる。
- L45E2
 - ディクレアララー側のときもE項1と同様にリードとして扱うか判断する。
 - リードとして扱いリード権があるときは、次のトリックのリードになる。
 - リードとして扱うがリード権がないときは、第55条『ディクレアララーの順番外のリード』を適用する。
 - リードとして扱わないときは、調整なしでハンドもしくはダミーに戻す（ディクレアララー側にペナルティカードはない）。

第47条 カードのプレイの取り消し**A. 調整の過程**

一旦行われたカードのプレイであっても、違反行為の後調整が必要なときは取り消すことができる（ただし、ディフェンダーの取り消されたカードはペナルティカードになることがある。第49条参照）。

B. 違法なプレイの訂正**C. 意図と異なる指定の変更****D. 対戦相手のプレイの変更への対応****E. 間違った情報に基づくプレイの変更****F. その他の取り消し****第48条 ディクレアラールが見せたカード****A. ディクレアラールがカードを見せた場合**

ディクレアラールはカードを見せても制限を受けることはなく（ただし、第45条C項2参照）、ディクレアラールやダミーのカードがペナルティカードになることは決してない。ディクレアラールには偶然落としたカードをプレイする義務はない。

B. ディクレアラールがハンドを広げた場合

1. 順番外のオープニングリードの後ディクレアラールがハンドを広げたときは、第54条を適用する。
2. 順番外のオープニングリードのすぐ後を除き、ディクレアラールがハンドを広げたときは、トリックの「取り」または「取られ」の宣言をしたとみなし（ただし、取りの宣言をする意図がないことが明らかかな場合を除く）、第68条を適用する。

L47A

○違法なプレイを訂正したり、調整に従うために反則側のディフェンダーがプレイしたカードを取り消すことができる。取り消したカードがペナルティカードになるかどうかは、第49条『ディフェンダーが見せたカード』を参照する。

L48A

○ディクレアラールが偶然カードを見せたとしてもペナルティカードにはならない。またプレイする必要もなくハンドに戻す。
○またダミーのカードもペナルティカードになることはない。

第49条 ディフェンダーが見せたカード

普通にプレイしているときや規則を適用する場合を除き（例えば第47条E項参照）、ディフェンダーのカードがパートナーがカードの表を見ることができる位置にあったときや、ディフェンダーがハンドにあるカードを名指したときは、このようなカードはすべてペナルティカードになる（第50条参照）。ただし、ディフェンダーが現に進行中の完了していないトリックについて言及したときは第68条を参照し、またディフェンダーの「取られの宣言」にパートナーが反対したときは第68条B項2を参照する。

L49

- まず原則として合法的にプレイしたカード以外でディフェンダーが見せたカードはペナルティカードになる。第50条『ペナルティカードの処置』では「ディフェンダーが早まって見せたカード」と定義されている。
- ディフェンダーのカードがパートナーがカードの表を見ることができる位置にあったとき、そのカードはペナルティカードになる。
 - ※ パートナーが見たかどうかは問われない。
 - ※ プレイしたカードかどうかは問われない。つまり落としたカードなど。
 - ※ ディフェンダーが自分のハンドのカードを名指したときは、ディフェンダーが見せたカードとして扱う。つまりトリック中ならプレイしたカードになるし、それ以外ではメジャーペナルティカードになる。
- ディフェンダーが非反則者で規則に従ってプレイが取り消されたときはペナルティカードにならない。例えば、第47条E項『間違った情報に基づくプレイの変更』適用してプレイを取り消したときなど。
- ディフェンダーが反則者側で違法なプレイが訂正されたり、調整に従うためにプレイされたカードが取り消されたときはメジャーペナルティカードになる。
- 第68条は『トリックの「取り」または「取られ」の宣言』B項2はディフェンダーの取られの宣言がパートナーの反対によって宣言が成立しなかった場合。そのときにディフェンダーが見せたカードはペナルティカードにならない。

第54条 表向きに出した順番外のオープニングリード

順番外のオープニングリードが表向きにされ、反則者のパートナーがリードを伏せて出しているときは、ディレクターは伏せて出したリードを取り消すよう命じる。さらに：

A. ディクレアラーがハンドを広げる場合**B. ディクレアラーがリードを受け入れる場合**

ディフェンダーが順番外のオープニングリードを表向きにしたときは、ディクレアラーは第53条で定めたとおり、この違法なリードを受け入れ、第41条に従ってダミーを広げることができる。

1. このトリックに対する2番目のカードはディクレアラーのハンドからプレイする。
2. ディクレアラーがこのトリックに対する2番目のカードをダミーからプレイしていたときは、リボークの訂正を除き、ダミーのカードを取り消すことはできない。

C. ディクレアラーがリードを受け入れなければならない場合**D. ディクレアラーがオープニングリードを拒否した場合**

ディクレアラーはディフェンダーに表向きに出した順番外のオープニングリードを取り消すよう要求することができる。この取り消したカードはメジャーペナルティカードになり、第50条D項を適用する。

E. 間違っただけによるオープニングリードの場合

L54B

○第53条は『順番外のリードの受け入れ』

○第41条は『プレイの開始』ダミーのハンドの広げ方が記述されている（トランプがダミーから見て右側など）。

○順番外のオープニングリードを受け入れるときは、ダミーになるかならないかの選択肢がある。

L54D

○順番外のオープニングリードが受け入れられないときはメジャーペナルティカードとなる。そのときは反則者のパートナーがリードする順番なので、はじめから5つの選択肢を説明する。

順番外のオープニングリードを

- (1) 受け入れてダミーになることができる。
- (2) 受け入れてダミーを広げ2番目のカードをハンドからプレイする。
- (3) 受け入れず要求をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
- (4) 受け入れず禁止をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
- (5) 受け入れず要求も禁止もしない。ペナルティカードは引き続きペナルティカードとして扱う。

第56条 ディフェンダーの順番外のリード

順番外のリードが表向きに出されたとき、ディクレアララーは：

- A. 第53条に定めるとおり、この違法なリードを受け入れることができる。または、
- B. ディフェンダーに表向きになった順番外のリードを取り消すよう要求することができる。取り消したカードはメジャーペナルティカードになり第50条D項を適用する。

L56B

○順番外のリードが受け入れられないときはメジャーペナルティカードとなる。そのときは反則者のパートナーがリードする順番なので、4つの選択肢を説明する。

順番外のリードを

- (1) 受け入れる。
- (2) 受け入れず要求をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
- (3) 受け入れず禁止をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
- (4) 受け入れず要求も禁止もしない。ペナルティカードは引き続きペナルティカードとして扱う。

第57条 早まったリードやプレイ**A. 次のトリックへの早まったリードやプレイ**

ディフェンダーが、パートナーが現行のトリックにプレイする前に次のトリックに対してリードしたり、パートナーがプレイする前に順番外にプレイしたときは、このようにリードしたりプレイしたカードはメジャーペナルティカードになる。さらにディクレアラーは以下から1つを選ぶ。

1. 反則者のパートナーに現行のトリックにリードされたスートで持っている一番高いカードのプレイを要求する。
2. 反則者のパートナーに現行のトリックにリードされたスートで持っている一番低いカードのプレイを要求する。
3. 反則者のパートナーにディクレアラーが指定する他のスートのカードのプレイを要求する。
4. 反則者のパートナーにディクレアラーが指定する他のスートのカードのプレイを禁止する。

B. 反則者のパートナーが調整に応じられない場合

反則者のパートナーがディクレアラーの選んだ調整に従えないときは（本条A項参照）、第59条に定めるとおり、任意のカードをプレイすることができる。

C. ディクレアラーかダミーがプレイしていた場合

1. ディフェンダーはパートナーより前にプレイしたとしても、ディクレアラーが両方のハンドからプレイしていたときには調整を受けることはない。なおディクレアラーの指定（または示唆^{*18}）があるまでダミーからプレイされたとはみなされない。
2. ディフェンダーはパートナーより前にプレイしたとしても、RHOがプレイする前にダミーが自発的に早まってカードを選んだときと、ダミーがカードをプレイしたことを違法に示唆したときには、調整を受けることはない。

^{*18}身振りやうなずきなどによる。

3. ディクレアラーがハンドまたはダミーから早まってプレイ（リードではない）すると、プレイされたカードになり、合法なら取り消すことはできない。

D. RHOの順番での早まったプレイ

ディフェンダーがRHOの順番でトリックにプレイ（リードではない）しようとしたときには、第16条を適用することがある。このカードがトリックに合法的にプレイできるならば、正しい順番にプレイしなければならず、そうでないときにはメジャーペナルティカードになる。

注釈 第57条

- L57A ○パートナーの順番を飛ばしてプレイしたカードはメジャーペナルティカードである。パートナーの順番を飛ばしてプレイするケースは以下のとおり。
- (1) 2番手のディフェンダーがプレイする前に4番手のディフェンダーがプレイした。
 - (2) 3番手か4番手のディフェンダーがプレイする前にもう1人のディフェンダーが次のトリックのリードをした。
- ディクレアラーに、反則者のパートナーには以下の制限があることを説明する
- (1) 一番高いカードの要求
 - (2) 一番低いカードの要求
 - (3) 任意のスートの要求（2017年規則で追加された）
 - (4) 任意のスートの禁止
- L57D ○第16条は『正当な情報と不当な情報』
- ディフェンダーによる1人飛ばしのプレイ。リボークでない限りプレイしなければならない。

第58条 同時に行われたリードまたはプレイ**A. 2人のプレイヤーが同時にプレイした場合**

他のプレイヤーの合法的リードやプレイと同時に実行されたリードやプレイは、合法的なものに続いて行われたものとみなす。

B. 1人のプレイヤーがハンドから同時に複数のカードを出した場合

プレイヤーが同時に2枚以上のカードをリードまたはプレイした場合：

1. カードの表が1枚だけ見えたときは、そのカードをプレイし、残りのカードはすべてハンドに戻してそれ以上の調整はない（第47条F項参照）。
2. カードの表が2枚以上見えたときは、反則したプレイヤーがプレイするカードを指定する。反則者がディフェンダーのときは、見えた残りのカードはペナルティカードになる（第50条参照）。
3. 反則したプレイヤーが見せたカードを取り消した後、このカードに引き続いてプレイした対戦相手はこのプレイを取り消し、調整なしで別のカードに入れ換えることができる（ただし、第16条C項参照）。
4. 双方が次のトリックに対してプレイするまで2枚以上のカードをプレイしたことに気づかなかったときは、第67条を適用する。

第59条 要求されたとおりにリードまたはプレイできない場合

リードを要求されたスートのカードがない、リードを禁止されたスートのカードしかない、またはスートにフォローする義務があるという理由で、調整に従って要求されたとおりにリードまたはプレイができない場合、プレイヤーは任意の合法的カードをプレイできる。

L58B2

- カードが1枚くっついていたので、2枚同時にプレイされたとする。そのとき2枚ともカードが見えてしまったときは、反則したプレイヤーがどちらのカードをプレイするか指定する。残ったカードはペナルティカードになる。
- 残ったカードが、アナーカードならメジャーペナルティカードになる。アナーカードでないときはマイナーペナルティカードになる。

L59

- リードやプレイの要求・禁止に関する一般原則である。
- スートにフォローする義務は何よりも優先される。
- その上で要求や禁止に従えないときは、任意のカードがプレイできる。
- 要求されたスートをプレイしないことはリボークになる（第61条A項 リボークの定義）。

第60条 違法なプレイの後のプレイ**A. 違反行為後のカードのプレイ**

1. 順番外のまたは早まったリードまたはプレイの後、調整が行われる前にLHOがプレイすると、この反則に対して調整を受ける権利を失う。
2. 調整を受ける権利を失うと、違法なプレイは順番通りとみなされる（第53条B項を適用するときを除く）。
3. 反則側に以前からペナルティカードをプレイする義務や、リードまたはプレイを制限される義務がある場合は、次のトリック以降に引き続きこの義務を負う。

B. ディクレアララーが要求されたリードをする前にディフェンダーがプレイしたとき

ディクレアララーがどちらかのハンドからの順番外のリードの取り消しを要求された後、ディクレアララーが正しいハンドからリードする前にディフェンダーがカードをプレイしたときは、このディフェンダーのカードはメジャーペナルティカードになる（第50条参照）。

C. 調整を行う前に反則側がプレイしたとき

調整を行う前に反則側のメンバーがプレイしたときは、そのプレイも調整の対象となることがあり、非反則側の権利が失われることはない。

L60A3 ○違法なプレイの受け入れ等でペナルティカードの権利が行使されなかったとしても、ペナルティカードはなくなるらない。次のトリック以降で引き続きペナルティカードの制限を受ける。

L60B ○第50条は『ペナルティカードの処置』

○具体例で状況の解説を試みる。

- (1) Sのディクレアララーにリード権がある。
- (2) Nのダミーにリードを指示した。
- (3) Wはディクレアララーからのリードに訂正するよう求めた。
- (4) ディクレアララーがハンドからのリードを考えている間になぜかEがプレイしてしまった。
- (5) Eはリードのつもりではなく、ディクレアララーが考えている間に、つい先ほどのダミーへの指示を思い出して慌てて自分の順番だと思ってしまったようだ。Wが順番外のプレイに対する訂正を求め受け入れられた後なので、Eのプレイは違法なものである。ただし、このときは第56条『ディフェンダーの順番外のリード』や第57条A項「次のトリックに対する早まったリードやプレイ」ではなく本条B項を適用する。
- (6) 従ってWに対してリードしたスートの最も高いカードや低いカードなどの要求はできない。またEのプレイしたカードを順番外のリードとして受け入れることもできない。メジャーペナルティカードとしてだけ扱う。
- (7) 実際の裁定にEの心理は関係ないことを断っておく。

第61条 スートにフォローしないこと**－ リボークに関する質問****A. リボークの定義**

第44条で定められたとおりにスートにフォローしないこと、または規則で要求されているか、カードやスートのリードやプレイができるのにしないこと、または対戦相手が違反行為の調整で要求したカードやスートのリードやプレイができるのにしないことはリボークになる（要求に従うことができないときは第59条参照）。

B. リボークの可能性について質問する権利

1. ディクレアラーは、ディフェンダーがフォローしなかったとき、リードされたスートのカードがないか質問することができる。
2. (a) ダミーはディクレアラーに質問することができる（ただし、第43条B項2(b)参照）。
(b) ダミーはディフェンダーに質問することはできない。違反行為には第16条B項を適用することがある。
3. ディフェンダーはディクレアラーに質問することができ、また、ディフェンダーは互いに質問することができる（ただし、この質問をしたこと自体が不当な情報となる可能性がある）。

C. トリックを調べる権利

リボークが指摘されたからと言って、終了したトリックの検査が認められるわけではない（第66条C項参照）。

L61A

- 第44条は「プレイの順序と進行」、とくにC項「スートにフォローする義務」に違反するとリボークになる。
- 第59条は「要求されたとおりにリードまたはプレイできない場合」つまり、
 - (1) メジャーペナルティカードに対するリードの要求
 - (2) 順番外のディフェンダープレイ時に最も高いカードや低いカードの要求
 - (3) 順番外のディフェンダープレイ時に指定されたスートの要求
 以上の要求に従わなかったときはリボークである。

第62条 リボークの訂正**A. リボークを訂正する義務**

リボークが成立する前に違反行為が指摘された場合、プレイヤーはリボークを訂正しなければならない。

B. リボークの訂正

リボークを訂正するには、反則者はカードのプレイを取り消して、代わりに合法的なカードを出す。

1. 取り消されたカードは、すでに表向きに置かれていたカードを除き、ディフェンダーのハンドからプレイしたものであればメジャーペナルティカード（第50条参照）になる。
2. カードがディクレアラ（第43条B項2(b)の制限内で）またはダミーのハンドからプレイされたか、あるいはディフェンダーの表向きに置かれていたカードの場合、調整なしで入れ換えることができる。

C. リボークの後プレイされたカード

1. 非反則側の各プレイヤーは、リボークの後、リボークが指摘される前にプレイしたカードをすべて取り消して、ハンドに戻すことができる（第16条C項参照）。
2. 非反則側が上記のようにカードを取り消した後、次の順番の反則側のプレイヤーはカードのプレイを取り消すことができるが、このプレイヤーがディフェンダーの場合、プレイを取り消したカードはペナルティカードになる（第16条C項参照）。
3. 同一のトリックにおいて双方の側にリボークがあり、一方の側だけがその後のトリックにプレイを行っている場合、双方がリボークを訂正しなければならない（第16条C項2参照）。ディフェンダー側の取り消したカードはすべてペナルティカードになる。

D. 12トリック目のリボーク

1. 12トリック目のリボークは、リボークが成立しているときでも、4つのハンドがすべてボードに戻される前に発見された場合には、訂正しなければならない。

2. 12トリック目にディフェンダーが、パートナーがトリックにプレイする順番の前にリボークした場合には、第16条C項を適用する。

- L62A ○リボークが成立する前はリボークを訂正しなければならない。成立した後はリボークを訂正してはならない（第63条B項『リボーク訂正の禁止』）。
- リボークしたときに、フォローすべきカードを見せてしまうプレイヤーには、まずディレクターを呼ぶように注意すべきである。リボーク成立後にカードを見せていたなら、見せたカードはメジャーペナルティカードになる。
- L62B ○第50条は「ペナルティカードの処置」
- L62C ○第16条C項は「取り消したコールやプレイから得た情報」
- リボークが訂正されたとき
- (1) 非反則者はリボークの後にプレイしたカードをすべて取り消すことができる。
 - (2) 反則側は、自分の前の順番の非反則者がプレイを取り消さない限り、自分のカードを取り消すことができない。
 - (3) さらに反則側がディフェンダーのときで、プレイしたカードを取り消したときは、取り消す前のカードがメジャーペナルティカードになる。
- 同一のトリックで双方の側がリボークをしたときは、片方のリボークが成立していたとしても、双方のリボークを訂正する。そしてディフェンダーの側だけがメジャーペナルティカードになる。

第64条 リボーク成立後の手順**A. 自動的なトリック調整**

リボークが成立したとき：

1. 反則したプレイヤー^{*19}がリボークの起きたトリックを取った場合、リボークの起きたトリックと、反則側がこれより後のトリックを取ったときはその中の1つを、プレイ終了後に非反則側に移す。
2. 反則したプレイヤー^{*19}がリボークの起きたトリックを取らなかった場合、反則側がこのトリック、あるいはこれより後のトリックを1つでも取ったときは、1トリックをプレイ終了後に非反則側に移す。

B. 自動的なトリック調整を行わない場合

リボークが成立したときでも、以下の場合には自動的なトリック調整を行わない（ただし、第64条C項参照）。

1. 反則側がリボークの起きたトリックを取らず、その後もトリックを1つも取らなかった場合。
2. 同じプレイヤーによる同じストでの2回目以降のリボークで、最初のリボークが成立している場合。
3. ペナルティカードやダミーのカードをプレイしなかったことによるリボークの場合。
4. 非反則側が次のディールのコールを行った後、リボークが初めて指摘された場合。
5. ラウンドが終了した後、リボークが初めて指摘された場合。
6. 12トリック目のリボークの場合。
7. 同じボードで双方の側がリボークして、双方のリボークがともに成立している場合。
8. リボークが第62条C項3の定めにより訂正された場合。

^{*19}この条項の適用に当たり、ダミーが取ったトリックはディクレアラールが取ったことにならない。

C. 損害の補償

1. リボークの成立後、トリックの調整対象にならないリボークも含め、本条では非反則側が受けた損害に対する救済が不十分であるとディレクターが判断したときは、調整スコアを与えるものとする。
2. (a) 同じプレイヤーによる同じストでの2回目以降のリボークがあった場合（本条B項2参照）、2回目以降のリボークの1つ以上がなかったら非反則側がより多くのトリックを取った可能性が高いとき、ディレクターはスコアを調整する。
(b) 同じボードで双方の側がリボークした場合（本条B項7参照）、一方の側の競技者が損害を受けたとディレクターが判断したときは、リボークがなかったときに起こりそうな結果に基づく調整スコアを与えるものとする。

注釈 第64条

- L64B3 ○ダミーのカードやペナルティカードなど4人に見えているカードにおけるリボークでは自動的なトリックの調整を行わない。

第68条 トリックの「取り」または「取られ」の宣言

宣言や行動が規則上の「取り」または「取られ」の宣言とみなされるためには、その宣言や行動が現行以外のトリックについて言及していなければならない。宣言や行動が現行のトリックの勝ち負けだけに関係しているときは、プレイは普通に進行する。ディフェンダーが見せたり、持っていることを示したカードはペナルティカードにはならないが、第16条および第57条A項を適用することがある。

A. 「取りの宣言」の定義**B. 「取られの宣言」の定義**

1. ディクレアララーまたはディフェンダーに自分の側が特定の数のトリックを負けるという意味の申し立てはすべて「取られの宣言」になる。一部のトリックの「取りの宣言」は残りのトリックの「取られの宣言」になる。ハンドを放棄したときは、残りすべてのトリックの「取られの宣言」になる。
2. 本条B項1にもかかわらず、ディフェンダーが「取られの宣言」をしようとし、そのパートナーが直ちに反対した場合は「取られの宣言」も「取りの宣言」も成立しない。不当な情報が発生した可能性があるので、直ちにディレクターを呼ぶものとする。プレイは継続する。このような状況でディフェンダーが見せたカードはいずれもペナルティカードにはならないが、カードを見せたことから発生した情報には第16条C項を適用し、カードを見せたディフェンダーのパートナーはこの情報を使用してはならない。

C. 必要な説明**D. プレイの中断**

L68

- 「取られ」の宣言をディフェンダーがして、パートナーが反対したときはプレイが継続する。「取られの宣言」時にカードを見せてしまったとする。ディフェンダーの見せたカードはペナルティカードにはならない。ただし不当な情報は適用される。
- 「取られ」の宣言では趣旨をまず説明しパートナーの反対がなさそうなことを確認してからカードを広げることが望ましい。
例えば、全部負けると思ったとき、「もう全部負けですね」などトリック数についてのみ言及する。パートナーが予想外の切り札を持っていたとき、おそらくプレイは継続される、宣言と同時にハンドを広げてしまうよりは、大分マシだろう。

ペナルティカードの裁定

ペナルティカードの裁定においては、まずマイナーペナルティカードかメジャーペナルティカードかを判断する。裁定で権利と義務を説明した後は反則者の後ろに立って、以下の2点に注意を払う

- (1) 反則者が違法なカードをプレイしないようにする。
- (2) 反則者のパートナーが早まってリードしないようにする。

反則者のパートナーにリード権が入ったら、ディクレアラーにリードの制限について説明する。下記の点に注意すること。

- (1) 要求・禁止を選んだときそのスートのペナルティカードがハンドに戻ることに。
- (2) 禁止のときはリード権が離れるまで禁止が続くこと。

ペナルティカードがなくなったら調整が終わったことを告げテーブルを離れる。実際の裁定の文言を記述してみる。内容が伝わるのが重要である、文例が一例であることを理解のうえプレイヤに合わせて工夫すること。

実際の裁定例

(1) メジャーペナルティカードの裁定例

(反則者はW、ペナルティカードは♠K)

「ペナルティカードはディスカードを含めてプレイできる最初の機会にプレイしなければなりません。」

「ペナルティカードが机の上であり、Eにリード権が入ったときはリードに制限があります。」

○ Eにリード権が入ったとき

「ディクレアラーは♠リードの要求か禁止を選ぶことができます。禁止の場合はリード権が続く限り禁止が続きます。」

「要求か禁止を選んだときはペナルティカードはハンドに戻ります。」
 「要求も禁止もしないときはメジャーペナルティカードとして机の上に残ります。」

○ リードの制限が選ばれた後（♠が禁止された）

「Wはカードをハンドに戻してください。」

「Eは♠以外をリードしてください、リード権が続く限り♠リードは禁止です。」

(2) マイナーペナルティカードの裁定例

(反則者はW、ペナルティカードは♠5)

「♠はマイナーペナルティカードです。最初の機会にプレイする義務やパートナーに対するリードの制限はありません。」

「唯一の制限は他の♠のローカードをプレイしてはいけないことです。

ペナルティカードがあっても、アナーをプレイすることはできます。」

「またリードのときは他のスートをプレイすることもできます。」

○ Eにリード権が入ったとき

「マイナーペナルティカードですので、リードの制限はありません。♠リードのときWはアナーをプレイすることも可能です、このままお続けください。」